

平成 30 年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修 参加報告

共通機器部門（情報基盤機器管理班）・技術主任 三原 修

1. はじめに(目的等)

中国・四国地区国立大学・高専の技術職員等に対して、その職務遂行に必要な基本的・一般的知識および新たな専門知識・技術等を習得し、職員としての資質の向上を図ることを目的とする本研修に参加（受講）し、所定の課程を修了した。以下、その参加報告である。

2. 期間・場所

期間：平成 30 年 8 月 29～31 日（3 日間）

場所：岡山大学 津島キャンパス（岡山市北区）

3. 参加者

中国・四国地区の大学・高専に所属する技術職員（48 名） 他

4. 研修内容

(1 日目)

下記の全体講義（3 件）の聴講

- ・ 全体講義Ⅰ 「肺移植で助かる命」（岡山大学病院臓器移植医療センター長 大藤剛宏教授）
- ・ 全体講義Ⅱ 「『100 年に一度の雨』とは？」（岡山大学大学院環境生命科学研究科 近森秀高教授）
- ・ 全体講義Ⅲ 「体内時計：生物が時間を知る仕組み」（岡山大学大学院自然科学研究科長 富岡憲治教授）

(2 日目)

下記の分野別講義・実習（情報系分野）の受講

- ・ 実習Ⅰ 「マインドストームを用いた人工知能プログラミング」

(3 日目)

下記の全体講義（2 件）の聴講

- ・ 全体講義Ⅳ 「感染症研究国際展開戦略プログラムに関して」（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 三好伸一教授）
- ・ 全体講義Ⅴ 「科研費等外部資金の申請について」（岡山大学総務・企画部長 後藤博明氏）

5. まとめと感想

この研修は毎年、中国・四国地区の国立大学等の持ち回りで開催されているが、採用後 13 年以上経つ自身としては今回、（広島大学主催分でサポートした以外）初めて参加することができた。

全体講義では教養的知識や法人運営・管理等に関する知識を、分野別講義・実習では専門的知識・技術を、それぞれ習得する場になったと思う。以下、各項目別にまとめと感想を述べる。

5.1 全体講義

岡山大学の先生方による全体講義では、医療や生物、環境（+防災・統計）等の各分野の講演が行われた。全体講義Ⅰでは、全国でも著名な大藤教授により肺移植手術について、臓器移植の現状（ドナー不足の問題等）を含めて詳しく理解できた。全体講義Ⅱでは、今年発生した豪雨災害（特に岡山県内）の現状や統計データを基にした降雨周期の予測手法について知ることができた。全体講義Ⅲでは、生物（ヒトを含む）の光受容による同調（体内時計）の仕組みを知り、規則正しいサイクルで生活することの重要性を改めて認識できた。全体講義Ⅳでは、岡山大学がインドで実施している感染症（コレラ）の臨床研究について、現地の人々の生活の現状を含め知ることができた。

また、全体講義Ⅴでは、科研申請に精通した後藤部長により科研の申請書作成方法について、その注意点や実例を交えて紹介され、大変参考になった（広島大学の教職員や研究企画室とは接点があるかどうか不明だが、採択されるような申請書作成について助言を仰ぎたい場合、かつて文科省の中樞で深く携わっておられたこの方を頼るべきと感じたほどである）。

5.2 分野別講義・実習(情報系分野)

今回の分野別講義・実習では情報系分野を受講した。Small Basic によるプログラミングを通して基礎知識の再確認ができ、その後、準備されたロボット（LEGO マインドストーム；EV3）によって、その実機とプログラムとの制御の関係（仕組み）を体得した。さらにこれを応用した、Python による AI プログラミングについて、その概略を学んだ。

制御や AI については、自身が普段業務で直接携わっていない分野の技術であるが、この研修を通してそれらの技術についての理解を深めることができたと思う。特に AI については、この研修の中では実習時間の制約もあり概略的な内容であったようであるが、この先も注目され続ける技術であるため、基礎から勉強しなおしてみたいと感じたところである。